

## ◆団体基本情報

No.	8	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市医療センター		
所在地	〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷五丁目22-1						
電話番号	022-252-1111		FAX番号	022-252-0454		所管 部局	健康福祉局 医療政策課
団体ホームページ	<a href="http://www.openhp.or.jp/">http://www.openhp.or.jp/</a>						
代表者職氏名	理事長 亀山 元信			設立年月日	昭和49年12月5日		
資本金・基本財産	10,000 千円		市の出捐額(割合)	6,000 千円		( 60.0 %)	
設立目的	仙台市及びその周辺の地域住民の公衆衛生の向上と包括医療の推進を図り、もって住民の健康と福祉の増進に寄与すること。						
事業概要	公衆衛生に関する指導相談事業。医学及び医療の向上に関する調査研究。オープンシステム病院、診療所及び介護老人保健施設の開設による公益的医業。生活習慣病の検診事業。介護保険法による各種サービス事業。その他この法人の目的達成に必要な事業。						
評価対象決算期	令和4年4月1日～令和5年3月31日						

## ◆人員等の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①常勤役員数	2 人	2 人	2 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	1 人	1 人	1 人
②常勤役員平均年齢	78.0 歳	79.0 歳	80.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	6,260 千円	6,216 千円	6,169 千円
④職員数	816 人	811 人	798 人
うち市派遣	0 人	0 人	0 人
市退職者	4 人	4 人	4 人
⑤職員平均年齢	40.2 歳	41.2 歳	41.2 歳
⑥職員平均年間給与	5,627 千円	5,716 千円	5,881 千円

## ◆主要財務データ

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①当期経常増減額	△ 142,106 千円	897,959 千円	523,963 千円
②当期経常外増減額	△ 1,743 千円	1,830 千円	142 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 143,971 千円	899,667 千円	523,983 千円
④一般正味財産期末残高	2,621,406 千円	3,521,074 千円	4,045,056 千円
⑤指定正味財産期末残高	3,421,400 千円	3,356,207 千円	3,171,651 千円
⑥正味財産期末残高	6,042,806 千円	6,877,281 千円	7,216,707 千円
⑦長期借入金残高	8,955,900 千円	8,418,500 千円	7,881,100 千円

## ◆市の財政的関与

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
①市からの補助金	701,548 千円	767,041 千円	759,043 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	81,353 千円	157,379 千円	158,393 千円
③市に対する収入依存度	7.50 %	7.72 %	7.76 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和4年度事業費
仙台オープン病院	オープンシステム（開放型病院）による登録医との共同診療（地域医療支援病院）。人間ドックや脳検診等、市町村・事業所を対象とした大腸がん検診を実施（人間ドック・健診施設機能評価認定）。広域仙台圏救急医療システムのコントロールタワーとして二次救急を中心とした救急事業（365日24時間対応）。管理型研修指定病院としての研修医受入。地域医療推進事業（市民医学講座・地域健康講座の開催、健康教育パンフレット発行）。看護学生に対する就学資金貸付事業。	10,274,462 千円
茂庭台診療所	内科・小児科の外来診療	18,231 千円
茂庭台豊齢ホーム	介護保険制度の施設入所の他、短期入所療養介護、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーションを実施	921,274 千円
居宅支援センター豊齢	介護保険制度の居宅介護支援事業所としてケアプラン作成等ケアマネジメントの展開を実施	10,996 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	<p>【病院】急性期医療、救急診療、健診事業（乳がん検診）をコロナ禍の状況においても積極的に担ってきた。急性期医療に関しては、コロナ感染状況が拡大しながらも開業医からの紹介を受入れ、手術、検査等を積極的に実施した。救急診療については、コロナ感染症も視野に入れながらの医療を展開し、患者数の増加が図られた。乳がん検診に関しては、市民健診としての受入れを積極的に展開したが、申込みの減少や他医療機関の移転により受診者数を伸ばすことができなかった。</p> <p>【茂庭】在宅医療・介護連携推進の方針に従い、当施設の3事業が連携し、利用者の自立支援を軸に事業を展開した。市からの委託による仙台市地域在宅療養推進連絡会（西多賀地区）では地区の要として地域の関係機関との連携を強めたほか、当施設の強みである認知症介護やリハビリテーション、栄養管理等について、コロナ禍以前に実施していた地域健康セミナーに代わり、機関誌等に掲載し、市民センター等に配布した。また、地域包括支援センター等に専門職の講師を派遣し、市民の介護知識等の普及、向上に努めた。</p>	<p>仙台オープン病院では、社会的に需要の高い専門医療をさらに強化し、救急医療においても、オープンシステムのもと救急搬送患者を積極的に受入れ、市内の二次救急医療に大きく貢献しているほか、新型コロナウイルス感染症にも確実に対応していることは、大いに評価できる。茂庭台豊齢ホームにおいては、今後重要となる在宅医療・介護連携分野で強みを活かし、地域住民の健康と福祉の増進に貢献できたことは評価できる。</p>
2. 業務・組織管理	<p>【病院】コロナ禍の状況でありながらも病院長の方針で通常診療の継続や新たな医療の取り組み（ハイパーサーミア）、医師の働き方改革の推進、仙台医療圏における病院の役割（救急等）、電子カルテのフルバージョンアップによる業務効率化等、将来に向けた医療体制の検討を行ってきた。</p> <p>【茂庭】令和5年～7年を計画期間とする第4期中期経営計画を策定し、計画に基づき、利用者確保に向けた医療機関等への営業、機関誌を通じた当施設の情報提供を行った。また、リハビリ等の強化による在宅復帰の推進により、超強化型老健施設の算定要件を通年で満たすことができた。</p>	<p>医師の働き方改革への対応として早期に勤務形態を変更し、結果として時間外労働についても削減でき、業界全体でも先進事例となっていることは高く評価できる。また、コンプライアンス研修など、法令順守・不正防止体制の整備が着実に実行されており、継続して取り組まれない。</p>
3. 財務状況	<p>【病院】コロナ第8波での院内クラスターや濃厚接触による職員減を経験した。影響は最小限に止めることができたものの、入院患者数の減少に伴い入院診療収益は減少し、外来は本院・救急共に増加した。全体的には新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備補助金により黒字ではあったが、本来の医業収支を常に注視し経営改善に取り組む。</p> <p>【茂庭】新型コロナウイルス感染症により、各サービスの利用控え、一部フロアでのクラスター発生等の影響を受け、収益は減少したが、クラスターの影響は3週間程にとどめることができ、大幅な減収は避けられた。</p>	<p>第4次中期経営計画を踏まえ、計画値と実績値の差異についても把握、分析し、目標達成に向けた取り組みが行われている。新型コロナウイルス感染症対応による入院患者減少の影響はあったが、診療単価上昇の傾向が続いていることは評価できる。コロナが5類へ移行したことから、補助金に依らない本来の医業収支による経営改善に取り組み、引き続き中期経営計画の実現に努められたい。</p> <p>引き続き感染対策に努めるとともに、光熱費高騰の傾向も踏まえた収益改善へ努力されたい。</p>

<p>4. 今後の方向性及び課題</p>	<p>【病院】コロナ5類となり、専用病床も削減（専用病床7床）してのコロナ診療体制を継続しつつ、救急・通常診療を再活性化する。今後の方向性としては、次回診療報酬改定の準備、医療資源である人材確保、医療DXの推進等、各関係団体と連携しながら整備していく。</p> <p>【茂庭】中期経営計画を基に、超強化型老健算定要件を継続的に満たす。科学的介護情報システム「LIFE」（加算あり）を導入したことから、施設内ネットワークを構築し、マンパワーの効率的活用を検討。令和4年度宮城県介護ロボット・ICT導入事業補助金を活用し、今年度IGT（電子カルテ）を導入することとしている。</p>	<p>令和5年度は、コロナ禍以前の患者数確保などを掲げた第4次中期経営計画の最終年であり、引き続きコロナ5類移行後の健全経営に向けて取り組むとともに、次期計画の策定を進め、仙台医療圏の地域医療・救急医療を担う病院として、住民から信頼される病院を目指されたい。茂庭台豊齢ホーム事業についても、引き続き稼働率向上や経営の効率化に取り組むなどして、増収に努められたい。</p>
----------------------	---	---